



冬、到来！インフルエンザに注意しましょう。

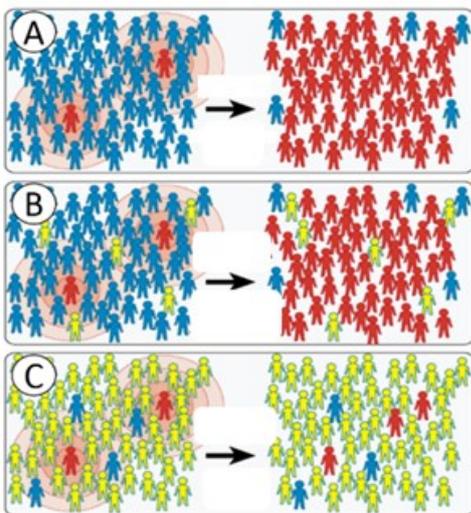
感染制御部

今年は暖冬と言われていますが、寒い日が多くなり徐々に冬が近づいてきたことを実感する日々が続いています。今年は12月末時点でインフルエンザの流行はまだ報告されていませんが、例年同様十分なインフルエンザ対策が求められる時期になりました。

★インフルエンザ対策、備えあれば患いなし

今シーズンよりB型株がワクチンに追加され、A型2種類・B型2種類の合計4種類の混合ワクチンになりましたが、院内での流行を防ぐためには十分な接種率を確保することが重要です。

院内で流行性疾患を防ぐためには、院内での免疫保有者の数を増やす必要があります。ある集団における免疫獲得者の割合は集団免疫率(%)で表現され、基本再生産数(R_0 ；一人の感染者から生じうる二次感染者数)から算出されます。流行を防ぐための集団免疫率(%)は $(1 - 1/R_0) \times 100$ と計算されますが、インフルエンザの基本再生産数(R_0)はおよそ2であることから、50%以上の集団免疫率を達成すれば理論上、インフルエンザの流行は防げることが推測されます(下図)。今年も皆様のご協力のおかげで、3,443人の職員にインフルエンザワクチンを接種することができました。ワクチンによりインフルエンザの罹患を完全に予防することはできませんが、院内流行を防ぐために十分な集団免疫は獲得できたと考えています。



(National Institute of Health)

青：免疫抗体を持たない健康な人、赤：感染者、黄：ワクチンにより免疫を獲得した人

防御抗体を持たない集団(青)で感染症が発症(赤)した場合その感染症は広く流行するが(A)、ワクチン接種などにより免疫獲得者が増える(黄)と、感染症の流行を防ぐことができる(C)。免疫獲得者の数が不十分な集団では、感染症の流行は防げない(B)。



大阪府のインフルエンザ対策マスコットキャラクター「マウテ君」

「マ」：マスク
「ウ」：うがい
「テ」：てあらひ

インフルエンザ対策において、ワクチン接種と同じくらい重要なのが標準予防策の徹底です。今回は、インフルエンザを含めた呼吸器感染症予防のための標準予防策について復習しましょう。

★手指衛生の習慣化を

インフルエンザウイルスは、飛沫感染以外にも手・顔・衣服・マスクなどに付着して接触感染していきます。速乾性アルコール製剤はインフルエンザウイルスに速効的に作用しますので、積極的にアルコールでの手指衛生をお願いいたします。勤務中や外出先から帰宅した際には、いつも以上に手指衛生を心がけてください。

★咳エチケットを忘れずに

咳やくしゃみなどの呼吸器症状があるときは、勤務中は必ずマスクを着用してください。また、インフルエンザを含めた呼吸器感染症が増えるこの時期、周囲に咳やくしゃみをしている患者さんを見かけたらマスクの着用を促してください。その際、正しいマスクの着用方法を説明してください。

★正しいマスクの着用を

ときどき“鼻出しマスク”をされている方がいますが、完全な予防策にはならないため、しっかり鼻までマスクで覆うように注意してください。また、マスクの表面にはウイルス・細菌が付着していることが多いため、一度マスクを着用したらむやみに触らないようにしましょう。マスクを触った後にはしっかり手指衛生を行ってください。インフルエンザを院内へ持ち込まないためには、院外でも人混みなどに行く際にはマスク着用を心がけてください。



★マスクがない時には・・・

マスクがない時に、咳やくしゃみが出てしまいそうなときは、ハンカチ・ティッシュなどで口を覆うようにしてください。ハンカチ・ティッシュがない時は、手ではなく自分の腕で口を覆うように心がけてください。咳やくしゃみをした後は、手指衛生も忘れずに行いましょう。